

第3回鳥取県・米子市新体育館整備検討委員会 発言要旨

1. 委員長挨拶

【原田委員長】

- ・第3回目の検討委員会ということで徐々に計画もできあがってきた。どのような体育館を造るかということも大事だが、建設コストの縮減や利益を生み出していく施設としての長期的な視点を持ちながらベストな計画となるよう努力したい。
- ・一方的に税金を投入する施設とするのではなく、お金を生み出す官民連携の仕組みをうまく作ることが重要。

2. 議事（新体育館整備基本計画（案）について）

【サブアリーナについて】

（植田委員）

- ・サブアリーナについて、本部席の設置なども含めたレイアウトを設計時に競技団体と協議しながら決定していくという理解でよいか。

（事務局回答）

- ・サブアリーナではメインアリーナとは異なり小規模な大会の実施を想定している。本部席の設置等も考慮する必要があると考えているが、全体の面積としては基本計画案に基づいて整備を行っていく考え。

（板井委員）

- ・サブアリーナのサイズはこれで決まりだろうか。競技団体としては、設計に入る前には協議を行ってほしいと考えている。

（事務局）

- ・今回お示した大きさでの整備を考えているところであるが、バスケットに限らず競技団体の意見を聞きながらレイアウトは決定したいと考えている。

（原田委員長）

- ・障がい者スポーツについて強く打ち出している中で、付加する機能については一般的な記述となっている印象もある。そこで提案だが、東京お台場のパラアリーナが東京パラリンピックの後、解体されることが決まっている。それを米子に移築し、新体育館のサブアリーナとして活用するのはどうだろうか。

（事務局回答）

- ・パラアリーナの移築については発想になかった。今回の基本計画案は既存3施設の集約という観点で作成したもの。パラアリーナに特化するものではないが、メイン・サブとも高齢者や障がい者の方にとって利用しやすい施設として整備したいと考えている。

（福留委員）

- ・原田委員長からお話のあったパラアリーナの移築について、パラスポーツの地方での強化拠点として誘致する際にも力を発揮すると思われる。

【防災機能について】

（高増副委員長）

- ・防災機能について、市内の地区体育館では現状どのような機能が備わっているのか。

（事務局回答）

- ・市内の地区体育館では避難所として一定の人数を収容できる機能はあるが、防災用の備品等の備蓄はされておらず、災害があればその都度物資を搬入する必要がある。地区体育館で一番大きな淀江体育館には全館対応の非常用発電装置が設置されているが、物資の備蓄に関しては他の地区体育館と同様である。

(福留委員)

- ・防災に関して、福岡県田川市が東京パラリンピックのホストタウンになっているが、トレーラーハウスの活用を行っている。新体育館でも同じような形で防災拠点として整備してほしい。

(事務局回答)

- ・防災機能に関しては、ご提案のあったようなトレーラーハウスなどの備え付けのものに限らず、防災部局と相談しながら必要な機能を持たせていきたい。

【その他の機能について】

(関委員)

- ・設計段階等、今後の話になるかもしれないが、トイレのことなどは基本計画に定めておく必要はないのか。諸室等も少し狭くなるようなので、ドーピング検査の実施等への対応についても考えておいた方がよいのでは。

(事務局回答)

- ・現在の基本計画案では必要機能として、基本となる必須の機能について記載を行っている。新体育館でどんなスポーツや大会、興行を行っていくかなどの使い方も含めて事業者提案によって機能を持たせていきたい。

【整備費用について】

(原田委員長)

- ・計画案に記載のある整備費 60 億円はメイン、サブを含めたものか。

(事務局回答)

- ・地質調査、設計監理、建設、外構工事を全て含めて 60 億円での整備と考えている。

【新体育館を活用した取組みについて】

(福留委員)

- ・基本コンセプトの中で、スポーツ参加の人口増やスポーツ実施率の向上、健康寿命の促進といったことに触れているが、こうした点が事業の効果として重要な部分になると考えている。現状把握や目標設定について、数値化できるものは数値化して効果を図れるようにしてほしい。
- ・新体育館整備を契機に地域活性化を図っていくといった大きなテーマを掲げる中で、自然環境や食などの地域資源とスポーツをどう連携させ、観光や健康増進などへつなげていくかといったことを今後考えていく必要があるのでは。

(事務局回答)

- ・スポーツ推進計画など上位計画では1週間の間のスポーツ実施率や障がい者の方のスポーツ参加率などに対する具体の目標設定がされており、それと連動した取組みができるようにしていきたい。
- ・新体育館について、スポーツツーリズムや地域における健康利用など、どのように地方創生や地域活性化に資する施設にしていくかということを考えていきたい。

【新体育館のスポーツ利用について】

(板井委員)

- ・コスト面の重要性は理解できるが、競技団体としては、興行での利用が中心になるとスポーツ大会での利用等が難しくなる。ぜひスポーツ利用を優先した使い方を検討いただきたい。鳥取市布勢の県民体育館を仮に廃止して今回の新体育館に機能集約するような話になれば、余計にそうした問題が影響してくると懸念している。

(事務局)

- ・現在、米子産業体育館でも数は少ないがバレーやバドミントン等の興行が行われており、そうした機会を増やすことの重要性も感じている。施設利用に関する調整会議の中で、適切に対応していきたい。
- ・県民体育館を廃止というのは想定しにくいと考えている。

【整備・運営への地元意見の反映について】

(福留委員)

- ・PPP/PFI などいろいろな手法で今後事業を進めていくことになると思うが、ぜひ的確に地域のニーズを把握できる方法をとっていただきたい。

(事務局)

- ・基本計画案について2月にパブリックコメントを実施することとしている。

【意見聴取を行った団体について】

(高増副委員長)

- ・競技団体に意見を聞いたということだが、具体的にどの団体に話を聞いたのか教えてほしい。

(事務局回答)

- ・本委員会の参画団体に加え、卓球、ソフトテニス、剣道、居合道、ハンドボールの関係団体、小中高の体育連盟の方と話をさせていただいた。また、スポーツ団体ではないが、米子商工会議所の方とも話をさせていただいた。

【地区体育館の修繕・機能強化について】

(板井委員)

- ・新体育館が整備され、供用開始されるのは6年後の予定ということであるが、それまで既存施設は問題なく活用できるのか。市民体育館が使えなくなれば、次に大きな施設である淀江体育館の需要が高まると考えられるが、淀江体育館には空調の効く部屋がなく雨漏りもしている。そういった修繕等に関してもご配慮いただきたい。

3. 委員長総括

(原田委員長)

- ・新しいアリーナを造ることだけで終わらせるのではなく、スポーツとまちづくり、県・市のシティセールスというマクロな視点も必要でないかと思う。
- ・このプロジェクトを契機に、民間活力を活用した公園の魅力向上に向けた仕組みづくりをしていくことが重要だと考える。
- ・アリーナ利用について、VリーグやBリーグといった興行と一般利用との住み分けが多くのアリーナで議論されている。未利用財産の活用等により、誰もが満足できる施設利用のあり方を実現できる可能性がある。
- ・建設コストなど限られたリソースの中で、どれだけ良い提案を引き出せるかというのが勝負になる。公募型プロポーザルなどを活用し、良い形で事業を進めていきたい。

4. 事務局挨拶

(米子市 岡文化観光局長)

- ・委員の皆様には、ご多忙のところ3回に渡り会議にご出席いただき、活発にご議論いただき感謝申し上げます。

- 本委員会を通じ、基本計画案が概ねまとまったところであり、これに基づきながら、誰もがスポーツに親しむことのできる県西部のスポーツ拠点としてだけでなく、地域活性化や安心な暮らしに役立つ施設として整備を行ってまいりたいと考えており、今後も引き続きご協力をお願いしたい。